KYOEI STEEL

第70期

中間株主通信

2013年4月1日 〜 2013年9月30日

特集 事業所紹介

枚方事業所 枚方工場

最高の品質を
最強のコストで提供する

共英製鋼株式会社

証券コード：5440

トップインタビュー

代表取締役社長　森田 浩二

新たな成長を目指し、国内外の事業基盤を強化します。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
第70期中間期（2013年4月1日から2013年9月30日まで）の業績につきましてご報告申し上げます。

経営理念
Spirit of Challenge
共英製鋼グループは鉄鋼事業を中核とした資源循環型事業を通じて社会と共生し日本経済と地域社会の発展に貢献する企業集団を目指します

Q1 上期の業績は？

増収減益という結果になりました。

当社グループの主要需要先である建設用鋼材市場では、期間前半には、原材料である鉄スクラップの価格下落に伴う製品先安感から鋼材購入を延期する動きが見られたことや、建設業界の人員不足による建設・土木工事の遅れ等により、製品需要は低調に推移しました。
一方後半は、7月の鉄スクラップ価格の反転を契機に鋼材購入の動きが回復し、当社グループの製品価格の引上げも進みました。しかし鉄スクラップ価格の想定を上回る上昇や、電力料金値上げなどによるコスト増が利益を圧迫する結果となりました。
この結果、当社グループの上期の業績は、前年同期対比増収減益の連結売上高771億75百万円（前年同期対比8.2％増）、連結営業利益4億17百万円（同81.6％減）、連結経常利益4億59百万円（同80.8％減）、中間純損失１億45百万円（前年同期は12億44百万円の利益）となりました。

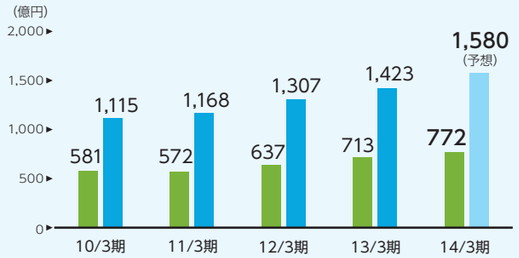
Q2 下期の取り組みは？

今後の需要拡大に向けて販売体制を強化します。

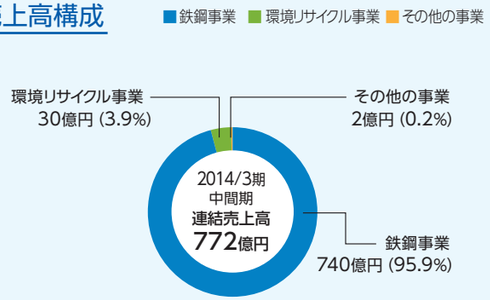
下期の建設投資は、高水準の公共工事や民間マンション建設、日本各地での再開発案件などにより、上期以上の拡大が見込まれます。
また震災復興や防災・減災対策、高度経済成長期に建設されたビルの建替えや各種インフラ（道路や鉄道、上下水道などの社会基盤）の更新も、下期以降中長期にわたり鋼材需要を下支えすることが期待されます。
なお特に関東では、2020年の東京オリンピック開催を受けた鋼材需要の拡大が予想されます。当社グループでは、営業体制の強化などにより関東の需要増加に着実にお応えします。
こうした状況を踏まえ、通期の業績は連結売上高1,580億円、連結営業利益29億円、連結経常利益32億円、連結当期純利益15億円を見込んでいます。

今年度の利益は、鉄スクラップ価格上昇による売買価格差（製品価格と鉄スクラップ価格の差）の縮小や、電力料金をはじめとする製造コストの増加により、前期対比減益となる見込みです。東日本大震災以降の電力料金の上昇に対し、各工場で電力原単位（製品1トンの生産に必要な電力量）の削減を中心に一層のコスト改善に努めており、2009年度対比で最大15％超の電力原単位削減を達成しました。今後も引き続きコスト改善を進めるとともに、お客様のご理解を得ながら販売価格の引上げに取り組み、利益の確保に努めます。

売上高



売上高構成



Q3 海外事業の取り組みは？

ベトナムの生産能力増強計画を一部見直します。

ベトナム南部のビナ・キョウエイ・スチール社（VKS社）と北部のキョウエイ・スチール・ベトナム社（KSVC社）の両拠点では、ベトナムの中長期的な鉄鋼需要増に応えるため、生産能力増強計画を進めています。

VKS社では、2014年秋の完成を目指して、年産50万トンの新生産ラインを建設中です。新生産ラインの完成を見据えた販路の拡大も進んでおり、当初計画通りの生産能力増強を実現します。

一方KSVC社では、近年のベトナム経済成長の鈍化を踏まえ、計画を一部見直しました。

当初年産50万トンの製鋼・圧延一貫ラインを増設する計画でしたが、ひとまずその生産能力を年産30万トンに縮小し、製鋼ライン（電炉）先行で建設を進めることとしました。圧延ラインは現在稼働中の既存設備（年産30万トン）を活用し、新圧延ラインの建設は今後の需要動向を見極めた上で決定します。

中長期的なベトナムの鉄鋼需要拡大の見方に変更はなく、今後の需要増の局面にもしっかりと対応できる工場とします。

ベトナムにおける共英製鋼グループの事業展開（増設後）

VKS社
- 製鋼・圧延ライン増設
  ⇒ 年産100万トン体制
- 2014年秋稼働開始

KSVC社
- 製鋼ライン先行
  ⇒ 年産30万トン体制
  （既存圧延ラインの活用）
- 2016年初頭稼働開始

日本・海外の両輪体制

日本170万トン（2014年3月期販売計画） ⇔ 海外130万トン（増設後の生産能力）

Q4 中長期的な経営方針は？

引き続き「業界再編の基軸カンパニー」を目指します。

当社グループは、事業環境の変化に対応し成長を続けるため、2010年4月に3つの成長戦略から成る「中長期経営ビジョン」を策定しました。現在は『海外鉄鋼事業の伸張』を最重要課題と位置付け、ベトナム南北2拠点で進めている設備増強計画の成功を目指します。国内では、『業界再編の基軸カンパニー』を目標に、新日鐵住金グループ内外を問わず、シナジー効果が期待できる提携・統合に積極的に取り組みます。

『環境リサイクル事業』についても、付加価値の高い廃棄物処理の比率を高めるなど、新たなチャレンジを展開していきます。

共英製鋼グループ 中長期経営ビジョン
1 国内鉄鋼市場での勝ち残り ～業界再編・統合の基軸カンパニーへ
2 海外鉄鋼事業の伸張
3 環境リサイクル事業の着実な成長

今後の事業環境は、当面は鉄鋼需要の拡大が期待できるものの、電力料金の値上げ、円安進行による燃料費や副資材単価の上昇などコスト負担増は非常に大きく、かつてないほど厳しい状況が継続すると考えています。

そのようななかで当社グループは中長期経営ビジョンの実現によって企業価値を高め、株主の皆様のご期待にお応えします。

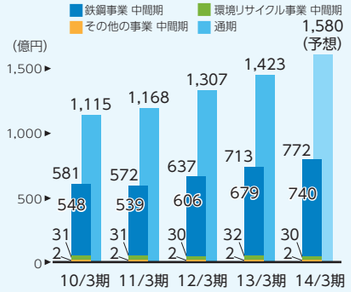
利益配当金につきましては、今後の成長を見据え国内事業の基盤強化と海外事業の伸張に必要な内部留保を確保しつつ、合理的な利益配分を実施する方針です。当中間期の配当金については、従来予想通り1株当たり5円とさせていただきます。

株主の皆様には、変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

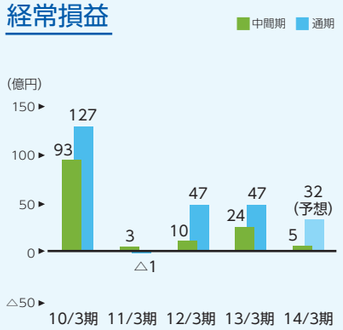
主な経営指標の推移

	当中間期（2013年4月1日～2013年9月30日）または当中間期末（2013年9月30日現在）	前中間期（2012年4月1日～2012年9月30日）または前中間期末（2012年9月30日現在）	前期（2012年4月1日～2013年3月31日）または前期末（2013年3月31日現在）
総資産（百万円）	171,614	160,300	165,129
純資産（百万円）	127,518	122,677	125,257
自己資本比率（%）	71.5	75.0	74.2
自己資本当期純利益率［ROE］（%）	–	–	1.7
1株当たり中間（当期）純利益［EPS］（円）	△ 3.33	28.60	47.59
1株当たり純資産［BPS］（円）	2,824.62	2,765.30	2,819.07

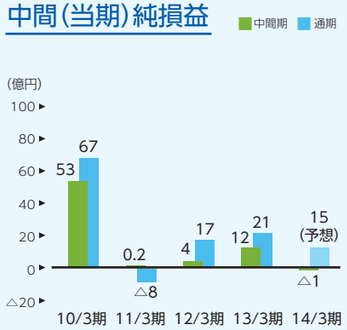
セグメント別売上高



経常損益



中間（当期）純損益



特集 事業所紹介

枚方事業所 枚方工場

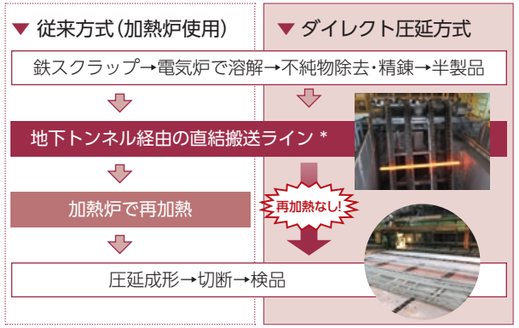
最高の品質を最強のコストで提供する

1972年、当社初の製鋼・圧延一貫工場として誕生した枚方事業所・枚方工場。共英製鋼の理念「スピリット・オブ・チャレンジ」の原点であるこの地で、その精神と技術が若い世代に受け継がれようとしています。

エネルギー削減の追求 ～「ダイレクト圧延方式」へ

鋼材の製造工程は「上工程(製鋼工程)」と「下工程(圧延工程)」に分けられます。従来、上工程で生産された半製品(ビレット)はいったんラインから外して保管され、下工程に送り込む際に圧延に適した温度に再加熱していました。枚方工場では2年間にわたる設備改造工事を経て、この上工程・下工程を直結し再加熱を行わない製造方法を確立しました。再加熱エネルギーの削減と、品質向上に大きな成果が期待されます。

○ 従来方式(加熱炉使用)とダイレクト圧延方式のちがい



＊枚方工場は「上工程」と「下工程」が市道により隔てられており、従来は「上工程」で生産された半製品をトラックで「下工程」に輸送していました。2006年、両工程を地下トンネルで直結してトラック輸送を廃止し、半製品の温度低下による熱エネルギー損失や輸送コストを削減しました。(この取り組みにより2007年度(平成19年度)「資源エネルギー庁長官賞」受賞)

枚方工場
製造部製鋼課長
小田 聡

工場概要

枚方事業所 枚方工場

■ 所在地
大阪府枚方市中宮大池3-1-1

■ 設　備
UHP大型電気炉、高速圧延によるブレーキ付ランイントラフ冷却床など

■ 生産品目
異形棒鋼・丸鋼・構造用棒鋼

事業所長に聞く!

顧客からの高評価を誇りに、“全員野球”で取り組む

私たちの製品は、その形状や品質を、製品が使用される建築現場や加工工場で日々厳しく吟味されています。枚方工場の製品が、建築物を支える鋼材に完璧を求めるプロフェッショナルのユーザー様から「狂いがなく、加工しやすい」という高いご評価を頂戴しているのが何よりの誇りです。

このご評価の背景には、枚方工場が設立当初から掲げる目標「最高の品質を最強のコストで提供する」があります。この目標に向けて諸先輩が営々と築き上げてきた技術力と営業力、これに更に磨きをかけ、次の世代へと引き継いでいかねばなりません。

「ダイレクト圧延方式」への挑戦をはじめ、枚方工場の全スタッフが自らテーマを決めて課題に取り組んでいます。“枚方工場・全員野球”の精神で、日々走り続けます。

取締役 常務執行役員
枚方事業所長
座古 俊昌

ベテラン&若手
座談会

品質の枚方工場
― その技術を継承するために ―

品質向上で差別化を

中畔： 枚方工場は1972年、世界で初めて「一つの電気炉で連続して半製品（ビレット）を生産する『一炉一連鋳（いちろいちれんちゅう）方式』の製鋼工場」として完成しました。当時の最先端技術を自ら開発した先進的な工場だったわけです。
1980年代後半バブル景気の頃には、お客様の購入希望が余りにも多く、製品の完成を輸送用トレーラーが待っていて、まだ熱いままの製品を積んで出ていったこともありました。

1990年以降は、他社との製品差別化を図るため品質重視の取り組みを強化しました。それ以降「同じ鉄筋なら枚方工場の製品を」と指名してくださるユーザー様が増えました。

濱田： 福山君は、今回のダイレクト圧延の設備更新に取り組んで、勉強になったことも多いでしょう。

福山： 以前は、指示されたことをただこなすだけでしたが、圧延設備の更新に携わることになって、既存設備がなぜ現在のような形になっているのかに疑問を持ち、調べてみました。それがきっかけとなって、疑問を持って自分で調べる、という仕事の進め方ができるようになりました。もちろん自分ではわからないことも多くて、先輩や上司に教えてもらいながら、ですが。

濱田： 問題意識を持って自分で考え、失敗しながらでも取り組んでいくと成長は速くなりますね。

中畔： 次の世代を担う若手社員の育成が私たちの課題ですが、今回の設備更新は、設備の仕組みを勉強する良い機会になったはずです。このプロジェクトに携わった若手社員は大きく成長するきっかけを掴んだわけで、たいへん幸運だったと思います。

“スピリット・オブ・チャレンジ”の精神で

福山： 当社には、技術に関する文献・書籍や諸先輩が作成された資料・データが豊富に揃っています。これらをしっかり読んで勉強し、課題を発見し改善に取り組んでいきたいと思います。特に今まで勘に頼っていた部分をデータ化して、更なる品質向上を目指すことが、私たち若手に課せられた使命だと感じています。

中畔： 共英製鋼の理念である“スピリット・オブ・チャレンジ”の精神を若手社員が持ち続け、“品質の枚方工場”を継承してほしいと切に願います。

トピックス

ベトナム・VKS社で、新ラインの建設工事が進行中

ベトナム南部ホーチミン市郊外のビナ・キョウエイ・スチール社（VKS社）では現在、2014年秋の完成を目指して、年間50万トンの生産能力を持つ製鋼・圧延一貫ラインの建設工事が進んでいます。新ライン完成後VKS社は、現在の圧延ライン（年産45万トン）と合わせて約100万トンの生産能力を誇るベトナム有数の鉄鋼メーカーになり、日本の技術と経営による高品質の製品で、インフラ整備の進捗とともに拡大が予想されるベトナムや近隣諸国の鋼材需要にしっかりと応えます。
またVKS社は、新ライン建設工事と並行し新たな販路の拡大に取り組んでいます。これまでVKS社は、主として一般住宅向けの小型サイズ製品を製造・販売してきましたが、現在建設中の新ラインは、今後ベトナムで需要増加が見込まれる高層ビルや大規模土木工事向けの大型サイズ製品を効率よく生産する能力を備えています。
新たな製品で新たな市場開拓へと、VKS社のチャレンジが始まっています。

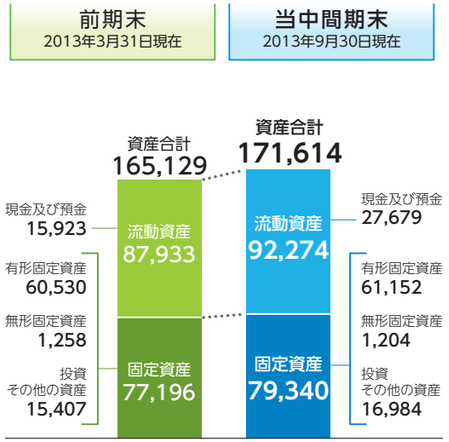
山口事業所、累計出荷量2,000万トンを達成

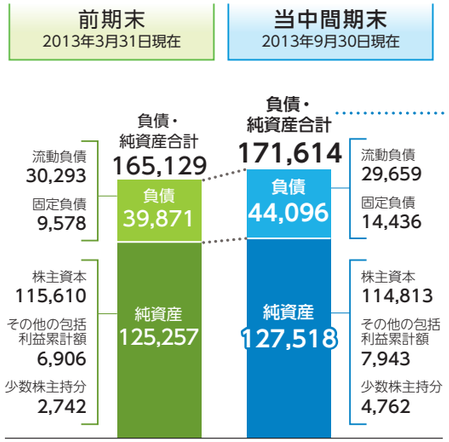
当社山口事業所は本年6月、1974年6月の操業開始以来39年を経て、累計出荷量2,000万トンを達成しました。
山口事業所は、異形棒鋼（鉄筋コンクリート用棒鋼）をはじめ、構造用棒鋼、等辺山形鋼、平鋼、Ｉバーなど多品種、そして多サイズにわたる高付加価値製品を安定的に供給するため、夜間操業が多い日本の普通鋼電炉業界としては珍しく24時間フル操業しています。お客様のニーズを製造部門へとつなげる営業力と、広範な製品を生産する技術力、確実なデリバリーなどを通じて多くのお客様にいただいた信頼の積み重ねが、累計出荷量2,000万トンに結実しました。
更なるお客様満足とともに3,000万トンの実現を目指します。

↑山口事業所

決算情報

□ 連結貸借対照表の概要（単位：百万円）



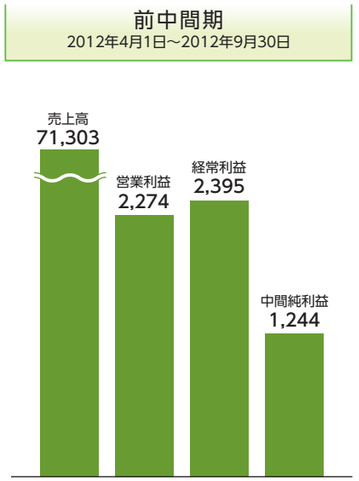


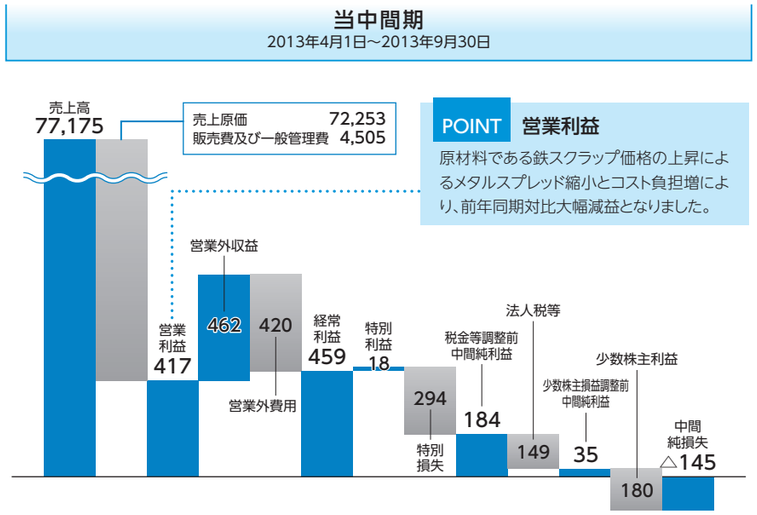
POINT

負債・純資産合計

ベトナムでの生産設備増強のため借入を実施したことから、負債が増加しています。

□ 連結損益計算書の概要（単位：百万円）





POINT **営業利益**

原材料である鉄スクラップ価格の上昇によるメタルスプレッド縮小とコスト負担増により、前年同期対比大幅減益となりました。

株式情報

□ 株式の状況（2013年9月30日現在）

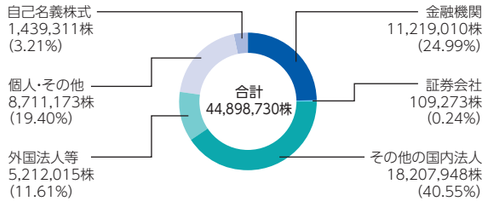
発行可能株式総数	150,300,000株
発行済株式総数	44,898,730株
株主数	2,789名

大株主

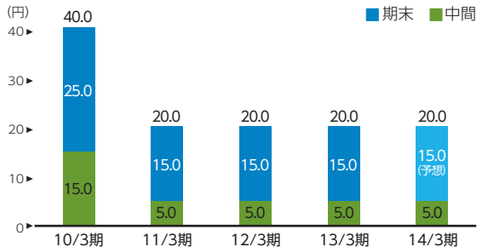
株主名	持株数	持株比率※1
新日鐵住金株式会社	11,592,932 株	25.82 %
高島　秀一郎	4,347,460	9.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（三井住友信託銀行再信託分・エア・ウォーター株式会社退職給付信託口）※2	2,600,400	5.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	2,524,300	5.62
高島　成光	2,233,000	4.97
ノーザントラスト カンパニー（エイブイエフシー）サブアカウント プリテイツシユクライアント	1,898,100	4.23
三井物産株式会社	1,470,000	3.27
共英製鋼株式会社	1,439,311	3.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,381,600	3.08
合同製鐵株式会社	1,347,000	3.00

※1 持株比率は、小数点第3位以下を四捨五入して表示しています。
※2 エア・ウォーター株式会社が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものであり、議決権については同社が指図権を有しています。また、上記以外に同社の100％連結子会社エア・ウォーター防災株式会社が退職給付信託に係る信託財産として設定する当社株式692,000株を有しています。

□ 所有者別株式分布状況（2013年9月30日現在）



□ 配当の推移



会社情報

□ 会社概要（2013年9月30日現在）

商　　号　共英製鋼株式会社
(KYOEI STEEL LTD.)

設　　立　1947（昭和22）年8月21日

資 本 金　185億16百万円

従業員数　1,391名（連結：正社員）

主な事業
(1) 鋼片、各種鋼材、鉄鋼製品の製造・加工・販売
(2) 一般・産業廃棄物、医療廃棄物の収集・運搬・処分業および自動車リサイクル事業ならびに廃棄物再生資源化事業
(3) 鉄筋・ネジ節鉄筋加工と組立工事
(4) 鉄鋼製造プラントの設計および鉄鋼製造技術の販売

関係会社　関東スチール（株）
共英産業（株）
（株）共英メソナ
ビナ・キョウエイ・スチール社
共英リサイクル（株）
共英加工販売（株）
中山鋼業（株）
キョウエイ・スチール・ベトナム社　他

□ 役員（2013年9月30日現在）

代表取締役会長	高島　秀一郎	執行役員	鳴海　修
代表取締役社長	森田　浩二	執行役員	星　芳樹
取締役・専務執行役員	深田　信之	執行役員	岡山　篤
取締役・専務執行役員	緒方　健	執行役員	針間　直樹
取締役・常務執行役員	川崎　孝二	執行役員	山川　薫
取締役・常務執行役員	座古　俊昌	執行役員	秦　好夫
取締役・常務執行役員	合六　直吉	執行役員	桂田　光太郎
取締役・常務執行役員	松田　良弘	執行役員	門河　昌宏
取締役・執行役員	岡田　章	常勤監査役	市原　修二
取締役・執行役員	大田　和義	監査役	井関　博文
取締役・執行役員	島　芳弘	監査役	中岡　誠
取締役・執行役員	平岩　治雄	監査役	小谷　明
取締役・執行役員	石原　研二	相談役 名誉会長	高島　成光
取締役	今井　康夫	相談役	吉岡　龍太郎
		相談役 山口事業所名誉所長	永田　紘文

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	毎年6月
基準日	
定時株主総会	3月31日（その他必要がある場合は、あらかじめ公告いたします。）
期末配当	3月31日
中間配当を行う場合	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話照会先	0120-782-031
公告の方法	電子公告とします。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引市場	東京証券取引所市場第一部
証券コード	5440

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会については、口座のある証券会社宛にお願いいたします。

共英製鋼株式会社

〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-16 アクア堂島西館18階
TEL 06(6346)5221(代表)
URL http://www.kyoeisteel.co.jp/

UD FONT